

事例番号:330128

原因分析報告書要約版

産科医療補償制度
原因分析委員会第六部会

1. 事例の概要

1) 妊産婦等に関する情報

初産婦

2) 今回の妊娠経過

特記事項なし

3) 分娩のための入院時の状況

妊娠 36 週 6 日

9:05 前日昼から胎動自覚なく受診

胎児心拍数陣痛図で基線細変動減少、一過性頻脈消失

10:00 胎児機能不全のため入院

4) 分娩経過

妊娠 36 週 6 日

17:35- 胎児心拍数陣痛図で基線細変動ほぼ消失、軽度および高度遅発
一過性徐脈出現

20:06 胎児機能不全の診断で帝王切開により児娩出

胎児付属物所見 臍帯は細く過捻転あり

5) 新生児期の経過

(1) 在胎週数:36 週 6 日

(2) 出生時体重:2400g 台

(3) 臍帯動脈血ガス分析:pH 7.04、BE -14mmol/L

(4) アプガースコア:生後 1 分 0 点、生後 5 分 0 点

(5) 新生児蘇生:人工呼吸(バグゲ・マスク、チューブ・バグゲ)、気管挿管、胸骨圧迫

(6) 診断等:

重症新生児仮死

(7) 頭部画像所見:

生後 28 日 頭部 MRI で多嚢胞性脳軟化症を呈する所見

6) 診療体制等に関する情報

(1) 施設区分:病院

(2) 関わった医療スタッフの数

医師:産科医 4 名、小児科医 2 名

看護スタッフ:助産師 4 名、看護師 4 名

2. 脳性麻痺発症の原因

(1) 脳性麻痺発症の原因は、妊娠 36 週 6 日の受診より前に生じた胎児低酸素・酸血症が出生時まで持続したことによって、低酸素性虚血性脳症を発症したことであると考えられる。

(2) 胎児低酸素・酸血症の原因は、臍帯血流障害の可能性を否定できない。

3. 臨床経過に関する医学的評価(2020 年 4 月改定の表現を使用)

1) 妊娠経過

妊娠中の管理は一般的である。

2) 分娩経過

(1) 妊娠 36 週 6 日に前日から胎動自覚がないため来院したことに対して、分娩監視装置を装着し、入院管理としたことは一般的である。

(2) 入院後の胎児心拍数陣痛図について、胎児心拍数基線 150 拍/分、基線細変動少なめ、一過性頻脈なし、一過性徐脈なし、レベル 2 と判断したことは一般的であるが、分娩監視装置を 10 時 50 分から 13 時 24 分まで約 2 時間 30 分にわたって中断したことは一般的ではない。

(3) 原因検索として 11 時 42 分に超音波断層法を実施したことは一般的である。

(4) 胎児心拍数陣痛図の判読(13 時 24 分から 14 時 09 分について胎児心拍数基線 155 拍/分、基線細変動なし、一過性徐脈なし、および 17 時 35 分以降について基線細変動なし、一過性徐脈あり)は一般的であるが、14 時 09 分から

17時35分まで分娩監視装置を中断したこと、および経過観察としたことはいずれも一般的ではない。

- (5) 帝王切開の決定から61分後に児を娩出したことは一般的ではない。
- (6) 臍帯動脈血ガス分析を実施したことは一般的である。
- (7) 胎盤病理組織学検査を実施したことは適確である。

3) 新生児経過

- (1) 新生児蘇生(バッグ・マスクによる人工呼吸、気管挿管、胸骨圧迫、チューブ・バッグによる人工呼吸)は一般的である。
- (2) 重症新生児仮死のため当該分娩機関 NICU に入院としたことは一般的である。

4. 今後の産科医療の質の向上のために検討すべき事項

1) 当該分娩機関における診療行為について検討すべき事項

胎児心拍数陣痛図の判読と対応について、「産婦人科診療ガイドライン-産科編 2020」に沿った判読と対応を行うことが望まれる。

2) 当該分娩機関における設備や診療体制について検討すべき事項

- (1) 当該分娩の事例検討を行うことが勧められる。

【解説】 児が重度の新生児仮死で出生した場合や重篤な結果がもたらされた場合は、その原因検索や今後の改善策等について院内で事例検討を行うことが重要である。

- (2) 緊急帝王切開の決定から児娩出までの時間が短縮できるよう、院内の設備や人員配置を再検討することが望まれる。

3) わが国における産科医療について検討すべき事項

(1) 学会・職能団体に対して

入院前に発症した異常が胎児低酸素・酸血症を引き起こしたと推測される事例を集積し、原因や発症機序についての研究を推進することが望まれる。

(2) 国・地方自治体に対して

入院前に発症した異常が胎児低酸素・酸血症を引き起こしたと推測される事例の発症機序解明に関する研究の推進および研究体制の確立に向けて、学会・職能団体への支援が望まれる。